

高崎市長 富岡 賢治 様

令和7年度

予算編成についての要望書

令和6年10月16日

高崎市議会 たかさき未来

三島 久美子

荒木 征二

宮原田 綾香

貴職におかれましては、就任以来 13 年半にわたり、「さらに新しい高崎」の実現をめざして、スピード感を持って、さまざまな施策を推進されてきたことに対しましては、心より敬意を表します。

さて、令和 5 年 5 月、長きにわたり市民生活を苦しめてきた新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し、我が国の社会経済情勢もようやく回復基調となって 1 年近くが経過してスタートした令和 7 年度は、まさにポストコロナ、アフターコロナへと大きく舵を切った年でもありました。

とはいえ、ロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルとアラブ諸国の紛争など、混とんとした世界情勢が原油価格を押し上げ、物価高騰の波はとどまることを知らず、歴史的な円安を招くなど、市民生活を取り巻く情勢は、依然として不安定な状況が続いています。

このような社会情勢のもと、令和 7 年度は、団塊の世代が、すべて後期高齢者（75 歳以上）になり、社会保障費の増大は免れようがありません。そうした中、本市では、いよいよ来年度から、少子化対策・子育て支援の一環として、これまで全く手つかずの学校給食費の一部無償化に乗り出し、かつ、豊岡新駅周辺整備や、烏川かわまちづくり計画におけるレストハウス建設など、莫大な財政投入が見込まれる事業を推進しようとしており、財源確保のために、非常に厳しい財政運営が求められることは必至であります。

市税収入の飛躍的な伸びが期待できない中、財源確保を錦の御旗に、必要かつ喫緊の課題にまでメスが入り、市民生活にとって、真に必要かつ重要な事業が、後回しされかねないのではないかと、令和 7 年度の市政運営のあり方について、非常に懸念しています。

そこで、本市の令和 7 年度予算編成にあたり、特に重要と思われる 12 事項（55 項目）について、要望書を作成いたしました。

是非とも、新年度予算に反映していただくよう、強く要望いたします。